

埼玉会だより

第33号

日退協 埼玉会

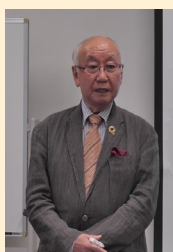
©



第11回 埼玉会総会報告

埼玉会代表 石井 憲

令和4年5月30日(月)、本部より吉川理事長、清水事務局長及び神奈川会、西東京会、京葉会の各地域会代表をご招待し、27名のご参加のもと第11回埼玉会総会を開催しました。



吉川理事長



石井代表

主催者を代表し、石井代表世話人は開会挨拶の中で昨年、一昨年の2年間にわたり、十分な活動ができなかったことを謝すとともに、今年度は感染状況を勘案しながらも各種イベント等を積極的に展開すること、また、今まで以上に社会貢献事業に取り組みたい旨発表しました。

吉川理事長より祝辞を頂戴したが、その中で地域会活動の重要性を訴え埼玉会にも大いに期待する旨述べられました。また、昨年度から始めたSDGsの取り組みと従来から実施してきた事業の深耕並びに会員の有する資源を生かした新事業の展開にも注力すると発言されました。

引き続き、担当世話人より2021年度活動報告と2022年度活動計画の説明があり、了解されて議事を終了しました。

その後、各地域会の代表より、ご挨拶をいただき、それぞれの取り組みについてご発表いただきました。埼玉会にとって、大変貴重なご意見を頂戴しました。

最後に、昨年度入会された会員の中からこの総会に出席の2名の方に今後の抱負を語っていただき、総会は滞りなく終了しました。

この紙面をお借りして、第11回埼玉会総会のご報告とさせていただきます。



“親” 渋沢栄一翁 <その2>

薄井 繁 (狭山市)



青天を衝いた翁は、日本の明治・大正期の実業家、財界の指導者。位階勲等爵位は正二位勲一等子爵。雅号は青淵。江戸時代末期に農民から武士に取り立てられ、のちに主君・徳川慶喜の將軍就任にともない幕

臣となり、明治政府では官僚も務めた。もし、日本の江戸末期から明治維新の時代に渋沢栄一翁がおられなかったらを考えると、その存在感の大きさに驚嘆するばかりだ。直近の元首相の不幸な事件は痛恨だが、共に国際舞台に於いてもその名を残した点が印象的。そして日本各地に存在する、身近な渋沢栄一関連の史蹟や会社・団体のエピソードが数多くあるので、単に埼玉県人の郷土愛だけでの見方では語りきれない人物となっている。

我々には「夢七訓」を残し、理想・信念・計画・実行・成果・幸福を求め、夢叶えろと叱咤しています。更にまた、情報のネットワーク[共有]仲間とのコミュニケーション重視を教示している。

埼玉会イベントのご案内

イベント幹事 菊池正美

今後のイベント予定は、イベントごとに詳細なご案内を致します。「参加」ご希望の方は次ページ巻末の事務局まで①e-mailまたは②Faxでお申込みください。

1. '22.8.4(木)「納涼の会」(企画:女子会)⇒コロナで「中止」
2. '22.8.23(火)「寄席」観賞 西東京会と合同(第66回)
3. '22.9.15(木)草加「草加宿と草加松原」散策(第67回)
4. '22.10.6(木)「首都圏外郭放水路」(第68回)⇒予約困難代替予定
5. '22.11.17(木)秩父札所巡り 26 番円融寺・27 番大瀨寺 (第69回)
6. '23.1.12(木)(初詣・新年会)大宮「氷川神社」(第70回)
7. '23.2.16(木)久喜「日本信号久喜事業所」見学(第71回)

世話人の異動報告

埼玉会発足当時からご活躍いただいた高橋淳氏、並びに本部の常任理事としてもご活躍いただいた倉片厚子氏は2022年3月末をもって世話人を退任されました。これまでのご尽力に心から感謝申し上げます。

代わって、石井代表から近藤孝寿氏に世話人を要請したところ、快くお引受けいただきました。

2022年度は、15人の世話人体勢で出発となりました。今年度も力を合わせ頑張りましょう。

《埼玉俳壇》

線香花火きみとの距離をたぐり寄せ

地畑朝子

花言葉

紫蘭の花言葉

堰 (ペンネーム)



シラン(紫蘭)はラン科の植物の中でも日本に自生している多年草で、暑さや寒さにも強く丈夫な種です。放任でも育ち、こぼれ種でも育つ繁殖力の旺盛な植物です。

花言葉は「変わらぬ愛」と素敵です。北原白秋が「紫蘭咲いていささか紅き石の隈目に見えて涼し夏さりにけり」と、いかにも爽やかで涼し気な花だと親しみを込めて読んでいます。只、花束やアレンジには向いていませんので贈り物用の切り花には不向きで、鉢植えか庭植えか地植えとなります。ぜひこの際、この花の名は「知らん」ということの無きよう、ご記憶いただければと思う次第です。

会員の写真作品紹介コーナー

No.16 「三匹の釣師」

関根貞夫 (さいたま市)

カメラを初めて購入した 52 年前にぶらり散歩しながら撮影したら、写真屋さんから県展に出品を勧められ出したところ「入賞」した写真です。

モノクロで古くなり上手く複写できないが「懐かしい思い出の写真」です。

題名は、三匹の侍ならぬ『三匹の釣師』でした。



事務局報告

☆ 2021 年度の新入会員のご紹介

(会員名)	(入会日)	(居住区)
大島道夫	2021.11.11	和光市
近藤孝寿	2021.04.07	八潮市
清水義和	2021.04.19	春日部市
湯川 修	2022.10.04	白岡市

ご入会ありがとうございます。今後とも埼玉会や他地域会企画のイベントにも積極的に参加いたしましょう。

なお、本年 9 月～11 月の 3 か月間、新入会員の紹介キャンペーンが予定されております。この機会に是非皆様のご友人をお誘いくださるようお願いいたします。

東浦和「見沼田んぼ」散策に参加して

手嶋良夫 (東京都渋谷区)

6 月 2 日 13 時に参加者 13 名が武蔵野線東浦和駅に集合し、通船堀公園でガイドより見沼地区の見どころの解説を受け、「浦和くらしの博物館」を目指して出発した。



まず、改修工事中の「通船堀」を見ながら、祭神は奇稲田姫命の「附島氷川女体神社」へ。

次に 1727 年に見沼の干拓事業に参加

し、その功績が認められ「見沼通船堀」の水運利用権を受けた「鈴木家」へ、模型のひらた船等を見学し、「木曾呂の富士塚」に登り、通船堀へ向かった。これは、1731 年に川の水位差を調整して船の運行を可能にする世界でも類を見ない、木材で造られた堰を持つ閘門式の運河で、土木機器のない時代に人力で造り上げた先人たちの努力に感服した。次の「川口自然公園」へ向かう途中の茶屋で冷たい甘酒をいただき一息つき、広さは約 3 ha あり、雑木林など自然が残っている公園であった。川の氾濫を防ぐための、約 100 ha を要する「芝川第一調節池」の東縁を歩き、終点の「浦和くらしの博物館」に 16 時 30 分過ぎに到着し、徳川幕府と庶民の願いをかけた干拓事業などに思いをはせる散策であった。

最後に一句 “見沼ブラ 先人思ふ 甘酒屋”

「飛鳥山公園・渋沢栄一の郷」探訪に参加して

篠野浩志(東京・町田市)

7 月 14 日(木)13 時、王子駅南口改札に集合。あいにくの雨でしたが 6 月から続いた記録的な猛暑に比べればむしろ快適であったかもしれません。東北・上信越方面からの帰路、都心に向け減速を始めた新幹線の右車窓から眺める小高い森がいつも気になっていました。それが今回訪問した飛鳥山です。東京で生れ育ったのですが、実は一度も訪れたことがなく「そのうちに・・・」と思っていたところ、今回の探訪が実現したわけです。

駅前から緑に囲まれた細い階段を登り、渋沢史料館・晩香廬・青淵文庫等を拝観、近代日本経済の礎を築いた渋沢翁の功績にあらためて敬服しました。その他園内の貴重な遺跡・旧跡も見学することができ予想していた以上の中身の濃い内容でした。

締めは名物「飛鳥山モノレール(アスカルゴ)」に乗り込み快適に下山。そして王子駅前の居酒屋で有志による懇親会にも参加させていただきました。コロナ禍の中でしたが節度ある有意義なイベントを大いに楽しむことができました。

埼玉会・京葉会の皆さまありがとうございました。



「京葉会」&
「埼玉会」の
合同企画

いきいきシニアライフ

(発行者) 公益社団法人 日本産業退職者協会・埼玉会

代表幹事 石井 憲

事務局 畠山忠昭

事務局 〒32-0031 川口市青木 1-22-17-902

TEL&FAX 048-259-5917

e-mail jarp_saitama@yahoo.co.jp